

社外取締役メッセージ

グローバルなコーポレートガバナンスの強化を通じた企業価値向上への貢献

社外取締役

姫岩 康雄

1983年にピート・マーウィック・ミッチェル会計士事務所（現 KPMG）に入所。2016年6月に KPMG 有限責任あずさ監査法人のパートナーを退任し、姫岩公認会計士事務所を開設。当社との関係では、2017年6月から独立社外取締役（監査等委員）を担当。

— ご経歴についてお聞かせください。

1983年にピート・マーウィック・ミッチェル会計士事務所（現KPMG）に入所し、約30年にわたって、数多くのグローバル企業の監査を担当しました。在職中にロンドン事務所に駐在し、欧州に進出する日系企業の監査及びアドバイザリー業務を担当したことが、自身の最大の財産の一つとなっています。

— 2024年度の振り返りをお願いします。

当社グループは、直前の2期連続で大幅な当期純損失を計上しました。こうした中で、2024年5月に中期経営方針を発表し、デバイス事業のアセットライト化とブランド事業の収益力向上に取り組んだことは大きな決断だったと思います。

特にアセットライト化の一環として、祖業に近い堺ディスプレイプロダクト株式会社の大型ディスプレイの生産停止という極めて大きな経営判断を下し、短期間でやり遂げたことは、他社では容易にできないことだったと思います。また、必達目標の当期純損益の黒字化も達成し、自己資本比率の改善、純有利子負債の大幅削減やフリーキャッシュフローの黒字継続など、財務基盤の改善も着実に進展しました。管理面を含めて迅速で徹底された対応だったと感じています。

— 当社の中期経営計画についてお聞かせください。

今回発表した中期経営計画では、沖津社長のリーダーシップのもと、創業の精神を深く根付かせ、全社員が「シャープらしさ」にこだわりを持って事業活動を推進できるよう、Our Mission「誠意をもって人々の日常を見つめ、創意をもって新たな体験を提案する」を策定し、全社一丸となって再成長、将来の飛躍を目指しています。

私は、経営陣との間で建設的な緊張感を持ちながら、内部監査部門や会計監査人と連携して監査・監督を行い、お互いの役割への理解と敬意を保ちながら経営の透明性を確保し、グループ全体の内部統制の実効性を向上させていきたいと考えています。また、支配株主との取引に関しては、少数株主保護の観点にも十分に配慮しつつ、グローバルベースでのコーポレートガバナンスの強化を図り、健全で持続的な成長と中長期的な企業価値の創出の実現に貢献することで、株主の信頼とステークホルダーからの要請に応えていきたいと考えています。

— グローバルなコーポレートガバナンスの重要性についてお聞かせください。

企業の継続的な成長と企業価値の向上には、グローバルベースでのコーポレートガバナンスを強化し、経営の透明性を確保することが、極めて重要だと思っています。

当社では管理本部、内部監査部門などによる内部統制が機能していますが、組織の規模が大きいこともあり、継続的な機能の検証と改善をしていく必要があると感じています。

私は監査法人での経験を活かし、グローバルベースでのコーポレートガバナンスの強化に取り組み、経営の透明性を確保することで、当社グループの継続的な成長と企業価値の向上に貢献したいと思っています。

— 資本コストや株価を意識した経営に向けた取り組み・課題についてお聞かせください。

資本コストや株価を意識した経営は、企業価値の向上を目指すために非常に重要だと思っています。しかしながら、当社グループは、過去の大きな損失によりバランスシートが大きく棄損し、資本効率を示す指標が有効に機能しない状況になっています。

この状況を考えると、まずはアセットライト化を含む構造改革をやり遂げ、安定的に利益を計上できる事業構造の確立に注力すべきと考えます。それにより、有利子負債の削減や自己資本比率の改善が進み、ROICやROEを安定的な指標として活用し、市場とより建設的な対話が可能になると思います。

— 当社の将来に期待することについてお聞かせください。

沖津社長は、現場を重視する姿勢がとても強い経営者だと思います。それは、製造、販売の現場訪問や内部統制の改善に迅速に対応する姿勢にも表れています。大きな組織ですので、トップとして明確な経営の方向性を持つことに加え、しっかりと社員に考え方を伝えようとする姿勢は、経営者として非常に大切なことだと思っています。

当社グループが大きな構造改革を通じて安定的に利益を計上できる事業構造を確立しつつあるのは、全ての社員が創業の精神である「誠意と創意」を持ち続け、自然と組織のガバナンスが機能していたことが大きかったと思います。沖津社長は「創業の精神」を発展的に継承しようとされており、今後もこのモメンタムを活かし、シャープらしい目の付けどころの良い特長のある製品を世に送り出す会社として成長していくことを願っています。